

## 安全データシート

## 1. 化学品及び会社情報

製品名：o-ジクロロベンゼン

## 会社情報

会社名：関東化学株式会社  
住 所：〒103-0022 東京都中央区日本橋室町 2-2-1  
担当部門：試薬事業本部 企画管理部 資料課  
電話番号：(0120)260-489  
FAX番号：(03)3241-1047  
メールアドレス：BC32@kanto.co.jp

整理番号：10127  
SDS 適用製品番号：10127, 10160  
推奨用途：試験研究用  
使用上の制限：推奨用途以外で使用する場合は専門家の判断を仰ぐこと。

## 2. 危険有害性の要約

## GHS 分類

|        |                  |                     |
|--------|------------------|---------------------|
| 物理的危険性 | 引火性液体            | 区分 4                |
| 健康有害性  | 急性毒性（経口）         | 区分 4                |
|        | 急性毒性（吸入：蒸気）      | 区分 4                |
|        | 皮膚腐食性／刺激性        | 区分 2                |
|        | 眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性 | 区分 2B               |
|        | 特定標的臓器毒性（単回ばく露）  | 区分 1（肝臓、腎臓）         |
|        | 特定標的臓器毒性（単回ばく露）  | 区分 3（麻酔作用）          |
|        | 特定標的臓器毒性（単回ばく露）  | 区分 3（気道刺激性）         |
|        | 特定標的臓器毒性（反復ばく露）  | 区分 1（神経系、肝臓、呼吸器、血液） |
| 環境有害性  | 水生環境有害性 短期（急性）   | 区分 1                |
|        | 水生環境有害性 長期（慢性）   | 区分 1                |

## 絵表示



注意喚起語：危険

危険有害性情報：可燃性液体  
飲み込んだ場合や吸入した場合は有害  
皮膚及び眼刺激  
呼吸器への刺激のおそれ  
眠気又はめまいのおそれ  
臓器の障害（肝臓、腎臓）  
長期にわたる、又は反復ばく露による臓器の障害（神経系、肝臓、呼吸器、血液）  
水生生物に非常に強い毒性  
長期継続的影響によって水生生物に非常に強い毒性

注意書き

- 安全対策
- 熱、高温のもの、火花、裸火及び他の着火源から遠ざけること。禁煙。
  - ミスト／蒸気を吸入しないこと。
  - 取扱い後は手、前腕および顔をよく洗うこと。
  - この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。
  - 屋外又は換気の良い場所でだけ使用すること。
  - 環境への放出を避けること。
  - 保護手袋／保護衣／保護眼鏡／保護面を着用すること。
- 応急措置
- 飲み込んだ場合：気分が悪いときは医師に連絡すること。
  - 皮膚に付着した場合：多量の水で洗うこと。
  - 吸入した場合：空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
  - 眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
  - ばく露又はばく露の懸念がある場合：医師に連絡すること。
  - 気分が悪いときは医師に連絡すること。
  - 気分が悪いときは、医師の診察／手当てを受けること。
  - 口をすすぐこと。
  - 皮膚刺激が生じた場合：医師の診察／手当てを受けること。
  - 眼の刺激が続く場合：医師の診察／手当てを受けること。
  - 汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。
  - 漏出物を回収すること。
- 保管
- 換気の良い場所で保管すること。容器を密閉しておくこと。
  - 施錠して保管すること。
- 廃棄
- 内容物／容器を国際、国、都道府県又は市町村の規則に従って廃棄すること。

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別：物質

| 化学名        | 濃度 (%) | 化学式     | 官報公示整理番号 |        | CAS RN  |
|------------|--------|---------|----------|--------|---------|
|            |        |         | 化審法番号    | 安衛法番号  |         |
| o-ジクロロベンゼン | ≥ 99   | C6H4Cl2 | 3-41     | 既存化学物質 | 95-50-1 |

4. 応急措置

応急措置

- 吸入した場合
- 直ちに新鮮な空気のある場所に移し、鼻をかませ、うがいをさせる。必要に応じて医師の処置を受ける。
- 皮膚に付着した場合
- 直ちに付着部を多量の水で十分に洗い流す。
- 眼に入った場合
- 直ちに流水で15分間以上洗い流し、必要に応じて眼科医の処置を受ける。
- 飲み込んだ場合
- 揮発性があるので、吐き出せるとかえって肺の吸引などの危険性が増す。速やかに医師の処置を受ける。水で口の中を洗わせてもよい。
- 応急措置をする者の保護
- 救助者はゴム手袋と密閉ゴーグルなどの保護具を着用する。

5. 火災時の措置

- 適切な消火剤
- 粉末化学消火剤、炭酸ガス、乾燥砂、耐アルコール性泡
- 使ってはならない消火剤
- 水、普通の泡消火器
- 消火方法
- 速やかに容器を安全な場所に移す。移動不可能な場合は、容器および周囲に散水して冷却する。

消火作業は、風上から行う。

初期の火災には、粉末・二酸化炭素、乾燥砂などを用いる。大規模火災の際には、耐アルコール性の泡消火器などを用いて空気を遮断することが有効である。

消火を行う者の保護 : 呼吸保護具を着用する。

## 6. 漏出時の措置

### 人体に対する注意事項、保護具および緊急時措置

一般的措置 : 作業の際は適切な保護具を着用し、漏洩した液が皮膚に付着したり、蒸気を吸入しないようにする。風上から作業し、風下の人を退避させる。付近の着火源となるものを速やかに取り除く。露出した場所の周辺にロープを張るなどして関係者以外の立ち入りを禁止する。

### 環境に対する注意事項

環境に対する注意事項 : 流出した製品が河川などに排出され、環境へ影響を起こさないように注意する。

### 封じ込め及び浄化の方法及び機材

封じ込め方法 : 漏洩した液はけいそう土などに吸着させて、空容器に回収する。漏洩した場所は、水で十分に洗い流す。

二次災害の防止策 : 付近の着火源となるものを速やかに取り除くとともに消火剤を準備する。

## 7. 取扱い及び保管上の注意

### 取扱い

技術的対策 : 皮膚に付けたり、蒸気を吸入しないように適切な保護具を着用する。火気厳禁。

作業場所の換気を十分行う。

光により微量の PCB（ポリ塩化ビフェニル）が生成することがあるので、取扱い中は遮光を行う。

安全取扱注意事項 : 密閉された装置、機械、または局所排気装置を使用する。取扱いは換気のよい場所で行なう。

酸化剤と接触させない。

### 保管

安全な保管条件 : 容器は密栓して冷暗所に保管する。

安全な容器包装材料 : ガラス、ふっ素樹脂。

## 8. ばく露防止及び保護措置

|            |                       |
|------------|-----------------------|
| 管理濃度       | 25 ppm                |
| 産衛学会 許容濃度  | 150 mg/m <sup>3</sup> |
| 産衛学会 許容濃度  | 25 ppm                |
| ACGIH TWA  | 25 ppm                |
| ACGIH STEL | 50 ppm                |

設備対策 : 取扱いについては、できるだけ密閉された装置、機器または局所排気装置を使用する。

### 保護具

呼吸用保護具 : 必要に応じて防毒マスク（有機ガス用）を着用する

手の保護具 : 耐溶剤手袋

|            |                        |
|------------|------------------------|
| 眼の保護具      | : ゴーグル型保護眼鏡            |
| 皮膚及び身体の保護具 | : 保護衣（長袖作業衣）、保護長靴、保護服等 |

## 9. 物理的及び化学的性質

|                          |                                                                          |
|--------------------------|--------------------------------------------------------------------------|
| 物理状態                     | : 液体                                                                     |
| 色                        | : 無色                                                                     |
| 臭い                       | : 芳香                                                                     |
| pH                       | : データなし                                                                  |
| 融点                       | : -17.01 °C                                                              |
| 凝固点                      | : データなし                                                                  |
| 沸点                       | : 180.48 °C                                                              |
| 引火点                      | : 71.5 °C (C.C.)                                                         |
| 自然発火点                    | : 648 °C                                                                 |
| 分解温度                     | : データなし                                                                  |
| 可燃性                      | : 引火性                                                                    |
| 蒸気圧                      | : 1.6 hPa (20°C)                                                         |
| 相対密度                     | : 1.305 - 1.311 (20/20°C)                                                |
| 密度                       | : データなし                                                                  |
| 相対ガス密度                   | : 5.07                                                                   |
| 溶解度                      | : 有機溶媒 ; エタノール、ジエチルエーテル、ベンゼン、四塩化炭素など<br>多くの有機溶剤に易溶。<br>水: 0.015 % (25°C) |
| n-オクタノール/水分配係数 (log Pow) | : 3.43                                                                   |
| 爆発限界 (vol %)             | : 22.2 - 9.2 vol %                                                       |
| 動粘性率                     | : 1.014 mm <sup>2</sup> /s (25°C)                                        |
| 粒子特性                     | : データなし                                                                  |

## 10. 安定性及び反応性

|            |                                      |
|------------|--------------------------------------|
| 反応性        | : 酸化剤と接触すると反応することがある。                |
| 化学的安定性     | : 通常条件で安定である。光により微量の PCB を生成することがある。 |
| 危険有害反応可能性  | : 通常の使用条件下では安定。                      |
| 避けるべき条件    | : 日光、熱。                              |
| 混触危険物質     | : 酸化剤。                               |
| 危険有害な分解生成物 | : 一酸化炭素、塩素、塩化水素。                     |

## 11. 有害性情報

|          |                                                                         |
|----------|-------------------------------------------------------------------------|
| 急性毒性（経口） | : 飲み込むと有害<br>ラット LD50=500mg/kg                                          |
| 急性毒性（経皮） | : 分類できない                                                                |
| 急性毒性（吸入） | : 区分に該当しない（気体）<br>吸入すると有害（蒸気）<br>ラット LC50=3753ppm/4h<br>分類できない（粉じん、ミスト） |

|                  |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |
|------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 皮膚腐食性／刺激性        | : 皮膚刺激<br>ウサギを用いた皮膚刺激性試験において、本物質の原液 0.5 mL を 4 時間適用した結果、72 時間後に軽度から中等度の紅斑と浮腫がみられたとの報告がある。また、ヒトに本物質を適用した結果、浮腫や水疱がみられたとの報告がある。以上より、区分 2 とした。                                                                                                                                                                                                                                   |
| 眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性 | : 眼刺激<br>ウサギの眼に本物質の原液 2 滴を適用した結果、軽度の刺激性がみられたとの報告や、職業ばく露によって眼刺激性がみられたとの報告がある。以上より、区分 2B とした。                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
| 呼吸器感受性           | : 分類できない                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |
| 皮膚感受性            | : 分類できない                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |
| 生殖細胞変異原性         | : 分類できない<br>In vivo では、腹腔内投与によるマウスの骨髄を用いた小核試験で陽性及び陰性の結果、皮下投与によるラットの骨髄細胞で陰性、腹腔内投与によるラットの骨髄細胞を用いた染色体異常試験で陰性、マウスの複製 DNA 合成試験、ラット、マウスの DNA 結合試験で陰性の結果がある。In vitro では、細菌の復帰突然変異試験、哺乳類培養細胞の遺伝子突然変異試験で陰性であるが、哺乳類培養細胞のマウスリンフォーマ試験、染色体異常試験、姉妹染色分体交換試験では代謝活性化系で陽性結果が報告されている。                                                                                                           |
| 発がん性             | : 区分に該当しない<br>IARC ではグループ 3（ヒトに対して発がん性については分類できない）に分類している。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
| 生殖毒性             | : 分類できない<br>実験動物では明確に生殖発生毒性を示したとの知見はないが、吸入及び経口経路による発生毒性試験は記述が不十分で、限定的な試験結果であり、分類に利用する上では信頼性の観点から制限があると考えられた。また、雄ラットに 50-800 mg/kg を単回腹腔内投与した試験で、精子の頭部、先体、又は尾部に用量依存的な形態異常がみられたとの記述があることから、現時点で「区分に該当しない」とするには情報不足と判断した。                                                                                                                                                       |
| 特定標的臓器毒性(単回ばく露)  | : 臓器の障害（肝臓、腎臓）<br>眠気又はめまいのおそれ<br>呼吸器への刺激のおそれ<br>本物質は気道刺激性がある。ヒトにおいては、高濃度吸入ばく露で麻酔作用、致死の麻痺、経口摂取で嘔吐、下痢、中毒性肝炎、腎炎の報告がある。実験動物では、ラット、マウスの吸入ばく露による区分 1 相当用量で、衰弱、小葉中心性肝細胞壊死、腎尿細管傷害、高濃度で麻酔作用、ラット、マウスの経口投与（区分 1 相当用量）で、小葉中心性肝細胞肥大、肝細胞空胞変性、肝細胞壊死を伴う肝細胞増殖増加、区分 2 相当用量で横臥位、自発運動低下、閉眼、歩行困難、振戦、呼吸不整、小葉中心性肝細胞肥大がみられている。以上より、区分 1（肝臓、腎臓）、区分 3（気道刺激性、麻酔作用）とした。                                  |
| 特定標的臓器毒性(反復ばく露)  | : 長期にわたる、又は反復ばく露による臓器の障害（神経系、肝臓、呼吸器、血液）<br>ヒトについては、多発性神経障害と肝障害、鼻腔や気道への刺激性、骨髄過形成、急性溶血性貧血や白血球増多症等がみられている。実験動物については、ラットを用いた 90 日間強制経口投与毒性試験において区分 2 の範囲である 100 mg/kg/day 以上で肝臓の小葉中心性の肝細胞肥大、小葉中心性の単細胞壊死、腎臓の近位尿細管に好酸性細胞質内封入体、ラットを用いた吸入経路での 2 世代生殖毒性試験において区分 2 の範囲である 150 ppm 以上で肝臓の肥大、腎臓の影響、ラットを用いた 192 日間吸入毒性試験において区分 1 の範囲である 0.02 mg/L で肺炎の報告がある。したがって、区分 1（神経系、肝臓、呼吸器、血液）とした。 |
| 誤えん有害性           | : 分類できない                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |

## 12. 環境影響情報

### 生態毒性

- 水生環境有害性 短期（急性） : 水生生物に非常に強い毒性  
甲殻類(ネコゼミジンコ属の一種) LC50=0.66mg/L/48h
- 水生環境有害性 長期（慢性） : 長期継続的影響によって水生生物に非常に強い毒性  
甲殻類(オオミジンコ) NOEC=0.10mg/L/21-day

### 残留性・分解性

難分解性  
BOD : 0%

### 生体蓄積性

低濃縮性  
BCF : 150-230 (0.1mg/L), 90-260 (0.01mg/L)

### 土壌中の移動性

中移動性  
Koc : 380

### オゾン層への有害性

オゾン層への有害性 : 分類できない

## 13. 廃棄上の注意

- 残余廃棄物 : 可燃性溶剤と混合して、スクラバーを具備した焼却炉で焼却処理を行う。または、都道府県知事の許可を得た廃棄物処理業者に委託処理をする。  
焼却炉は有機ハロゲン化合物を焼却するのに適したものであること。  
スクラバーの洗浄液には、アルカリ溶液を用いる。
- 汚染容器及び包装 : 空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去した後に処分する。

## 14. 輸送上の注意

### 国際規制

#### 海上輸送 (IMDG)

- 国連番号 (IMDG) : 1591  
正式品名 (IMDG) : o-DICHLOROBENZENE  
容器等級 (IMDG) : III  
輸送危険物分類 (IMDG) : 6.1

#### 航空輸送 (IATA)

- 国連番号 (IATA) : 1591  
正式品名 (IATA) : o-Dichlorobenzene  
容器等級 (IATA) : III  
輸送危険物分類 (IATA) : 6.1

海洋汚染物質 : 該当

### MARPOL 73/78 附属書 II 及び IBC コードによるばら積み輸送される液体物質

汚染物質カテゴリー : X

### 国内規制

- 陸上規制 : 消防法、毒物及び劇物取締法、道路法の規定に従う。  
海上規制情報 : 船舶安全法の規定に従う。  
航空規制情報 : 航空法の規定に従う。  
その他の情報 : 補足情報なし  
緊急時応急措置指針番号 : 152

## 15. 適用法令

### 国内法令

|                      |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
|----------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 労働安全衛生法              | <p>： 第2種有機溶剤等（施行令別表第6の2・有機溶剤中毒予防規則第1条第1項第4号）</p> <p>名称等を表示すべき危険物及び有害物（法第57条第1項、施行令第18条第1号、第2号別表第9）</p> <p>名称等を通知すべき危険物及び有害物（法第57条の2、施行令第18条の2第1号、第2号別表第9）</p> <p>オルト-ジクロロベンゼン（政令番号：122）</p> <p>名称等を表示すべき危険物及び有害物（法第57条第1項、施行令第18条第2号～第3号、安衛則第30条別表第2）（2025年4月1日以降）</p> <p>名称等を通知すべき危険物及び有害物（法第57条の2第1項、施行令第18条の2第2号～第3号、安衛則第34条の2別表第2）（2025年4月1日以降）</p> <p>ジクロロベンゼン</p> <p>皮膚等障害化学物質等・皮膚吸収性有害物質（安衛則第594条の2第1項、令和4年5月31日基発0531第9号、令和5年7月4日基発0704第1号・4該当物質の一覧）</p> |
| 毒物及び劇物取締法            | ： 非該当                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |
| 消防法                  | <p>： 第4類引火性液体、第三石油類非水溶性液体（法第2条第7項危険物別表第1）</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
| 海洋汚染防止法              | ： 有害液体物質（X類物質）（施行令別表第1）                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
| 船舶安全法                | ： 毒物類・毒物（危規則第2，3条危険物告示別表第1）                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
| 航空法                  | ： 毒物類・毒物（施行規則第194条危険物告示別表第1）                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |
| 道路法                  | <p>： 車両の通行の制限（施行令第19条の13、（独）日本高速道路保有・債務返済機構公示第12号・別表第2）</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
| 化学物質排出把握管理促進法（PRTR法） | <p>： 第1種指定化学物質（法第2条第2項、施行令第1条別表第1）</p> <p>ジクロロベンゼン（管理番号：181）（100%）</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |

## 16. その他の情報

|      |                                                                                                                                                                                                                                                                            |
|------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 参考文献 | <p>： 有機化合物辞典、有機合成化学協会編、講談社（1985）。</p> <p>溶剤ハンドブック、浅原照三 他編、講談社（1976）。</p> <p>Registry of Toxic Effects of Chemical Substances（RTECS）1985-86 ed. National Instituted for Occupational Safety and Health（1987）。</p> <p>NITE 化学物質総合情報提供システム（NITE-CHIRIP）、独立行政法人製品評価技術基盤機構。</p> |
|------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

\*この安全データシートは、各種の文献などに基づいて作成していますが、必ずしもすべての情報を網羅しているものではありませんので、取り扱いには充分注意して下さい。なお、注意事項は通常の取扱いを対象としたものであり、特殊な取り扱いをする場合には、その用途・用法に適した安全対策を実施して下さい。また、含有量、物理／化学的性質、危険有害性などの記載内容は、情報提供であり、いかなる保証をなすものではありません。この安全データシート（SDS）は、JIS Z7253 に基づいて作成しております。